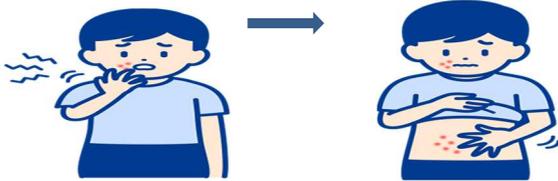


「とびひ」について詳しく知ろう

先週より、とびひにかかるこどもが増えています。7月と8月は「とびひ」について考えていきましょう。

「とびひ」の正式な病名は「**伝染性膿痂疹**」^{でんせんせいのおかしん}といます。細菌が皮膚に感染することで発症し、人にうつる病気です。かきむしった手を介^{すいほう}（水疱）が、火事の火の粉が飛び火する事に似ている為、「とびひ」と皮膚の一部に
あつという間に
きた水ぶくれや
体のあちこちに
ただれが
「とびひ」する



とびひは、虫刺されや、汗疹をかいたり、小さな怪我でできた皮膚の傷に細菌が入り込み、感染する事で発症します。

とびひには、水ぶくれができるもの（**水疱性膿痂疹**）^{すいほうせいのおかしん}とかさぶたができるもの（**痂皮性膿痂疹**）^{かひせいのおかしん}の2種類があり、アトピー性皮膚炎の方は、皮膚のバリア機能が低下しており、とびひになりやすいので注意しましょう。

水ぶくれができるもの：水疱性膿痂疹



皮膚にできた水ぶくれが、だんだん膿を持つようになり、破れると皮膚がめくれてただれてしまいます。かゆみがあり、そこをかいた手で体の他の部分を触ると、症状が体のあちこちに広がってしまいます。とびひの多くはこのタイプで、黄色ブドウ球菌が原因です。目・鼻・口のまわりから症状が出始める事が多く、体に広がります。かかりやすい季節は夏（暖房の普及で冬でもある）7歳未満の乳幼児がかかりやすい。

みずぶれができる

水ぶくれが破れ、皮膚がただれる

乾燥し、かさぶた
がはがれて治る

かさぶたができるもの：痂皮性膿痂疹



皮膚の一部に膿を持った水ぶくれ（膿疱）^{のうほう}ができ、厚いかさぶたとなります。炎症が強く、リンパ節が腫れたり、発熱やどの痛みを伴う事があります。主に化膿連鎖球菌が原因となりますが、黄色ブドウ球菌も同時に感染している事が多いです。できやすいところは全身にできる。季節や年齢に関係なし。

※黄色ブドウ球菌は、健康な人の皮膚の表面や鼻の中にいる常在菌です。傷口などから皮膚に入り込み、増殖する時に出す毒素がとびひの発症の原因になります。

※化膿性連鎖球菌は、健康な人の鼻の中やのどにいる常在菌です。傷口などの皮膚に入り込むと、とびひの発症の原因になります。A群β溶結性連鎖球菌（溶連菌）とも呼ばれます。

引用参考文献：とびひどんな 監修：神奈川県立医療センター皮膚科部長 馬場 直子先生

どんな病気 「とびひ」について 皮膚科疾患情報 とびひ（伝染性膿痂皮）製薬株式会社のマルホ